

特定非営利活動法人つむぎ（南丹市日吉町）
代表理事ドワイヤーはづきさん

聞き手：今回は、南丹市日吉町を拠点に活動されている、
「特定非営利活動法人つむぎ」の代表理事 ドワイヤー
はづきさんからお話を伺いました。

Q. 活動を始めたきっかけは？

関東で初めて刈払機を使ったことが、林業や里山との関わりの始まりでした。その後、農業ができて、自分と夫の英語も生かせる移住先を探し、南丹市日吉町胡麻へ移住しました。

田んぼ付きの家を手に入れて自ら稲作を始めたことで、地域の方々が守ってきた農地や水利、山とのつながりの大切さを実感しました。そして、「地域の未来を支える人を増やしたい」という思いから、移住支援や現在の活動を始めました。

Q. 活動をするうえで大切にしていることは？

「違い」を認めることです。良い悪いではなく、それぞれ異なる価値観があるだけだと思っています。「共通の利益」を見い出して、協働できるかどうか。

地域づくりはやってみないと分からないことばかりです。また、農業もおなじく、一人ではできないので、仲間づくりや地域でやっていくしくみづくりが大切だと思います。

Q. 南丹市の森林・林業・木材産業や行政に期待することは？

南丹市は森林率が高く、市の範囲を超えて豊かさをもたらすことができる森林資源を持っています。その価値を改めて見つめ直し、市内外へ発信してほしいと思います。

また、「南丹市の森にはどのような役割があるのか」「市として何を大切にしていくのか」という評価軸を整理し、市民と共有することも重要です。あわせて、広大な森林を抱える市だからこそ、職員数の拡充や、地域の専門家、関係団体等との連携を進め、特に多様な形で森に関わる担い手の育成を充実させてほしいと思います。

Q. 今後の目標や展望は？

森をきっかけに南丹を訪れる人を増やし、森づくりや里山保全に関わる人を広げていきたいです。

また、「南丹に移住すれば、農業や林業に挑戦できる環境や支援がある」と感じてもらえる仕組みづくりにも取り組みたいです。「なりわい」としてだけでなく、学ぶ人や楽しむ人など、農と森との多様な関わりが認知され、その関わりが同時に地域も支えることになるようにしていきたいと考えています。

聞き手：農業や林業を「なりわい（職業）」にする人だけでなく、学ぶ人や楽しむ人など、多様な人が農と森に関わることの大切さを改めて感じました。ドワイヤーさんの活動は、南丹の未来を支える仲間づくりそのものだと思います。

写真提供：特定非営利活動法人つむぎ ※本誌掲載の写真の著作権は提供者に帰属します。無断転載、複製、二次利用等を禁止します。

発行：南丹市農林商工部農山村振興課

なんたん、 木のこど、 森のこど、

2026.8 No.9

森林・集落・田んぼをつなぐ里山



©つむぎ



©つむぎ

里山の森林は、田んぼや集落と一体となって地域の暮らしを支えています。森林が育む水は農業を支え、豊かな自然環境は多様な生きもののすみかとなっています。また、人は木材や燃料などの恵みを受けながら、森とともに暮らしてきました。こうした森林と人とのつながりは、南丹の地域文化や景観を支える大切な財産です。この財産を未来へつないでいくためには、地域で暮らす人だけでなく、森に関心を持って地域外から関わる人など、多様な人々の力が欠かせません。森を学ぶ人、楽しむ人、保全活動に参加する人など、一人ひとりの関わりが南丹の里山と地域の暮らしを次の世代へつないでいます。



地域の活動紹介



多様なかわりで里山を未来へつなぐ 特定非営利活動法人つむぎ（南丹市日吉町）

■ 人と地域をつなぎ、里山の未来を育む

特定非営利活動法人つむぎは、南丹市日吉町を拠点に、移住・定住促進、地域づくり、担い手育成、里山資源の保全と活用に取り組む団体です。「多様な価値観を持つ人たちが協力しながら、持続可能な中山間地域をつくること」を目指し、2018年から活動を続けています。

地域に暮らす人と移住者、新たに地域に関わりたい人たちを結びつけながら、南丹の豊かな里山を次世代へ受け継ぐ活動を行っています。

■ 農と森に関わる“はじめの一歩”を

つむぎの活動は、移住者目線で作った移住ガイドブック「楽しい移住」の発行から始まり、現在は環境保全型米づくりを学ぶ「田んぼの1年生」、森林や林業について学ぶ「南丹の森で学ぶ」などの講座を通じて、地域住民や移住希望の方が農業や森林との関わり方を学ぶ機会を提供しています。

地域を支えるのは「なりわい」として農業や林業に携わる人だけではありません。自給的農家や、環境保全のために森に関わる人も、地域にとって大切な存在です。つむぎでは、そうした多様な関わり方を大切にしながら、地域や里山を支える人を増やしたいと考えています。



©つむぎ

講座：南丹の森で学ぶ



■ 一緒に南丹の森と里山を未来へ

市内に森林を学び親しむための活動拠点をつくり、子どもたちが山に親しむ機会や、先人たちが受け継いできた山仕事の知恵を次世代へ伝える取り組みも構想しています。

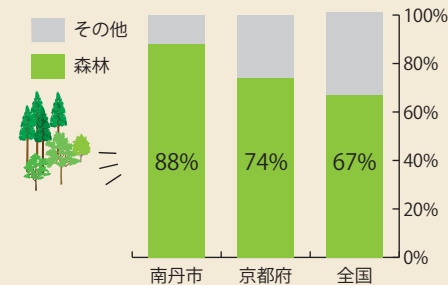
「林業の仕事をしたい」「移住したい」という人だけでなく、「森に興味がある」「自然の中で学びたい」「地域の活動に少し関わってみたい」という人も大歓迎です。里山の未来は、一部の専門家だけでは守れません。一人ひとりの小さな関わりが、地域の環境や暮らしを支える重要な“仕事”であり、地域の農や森を未来へつなぐ「守人（もりびと）」の役割を担っているのだと思います。みなさんもぜひ一緒に！

南丹市の森林のすごいところ



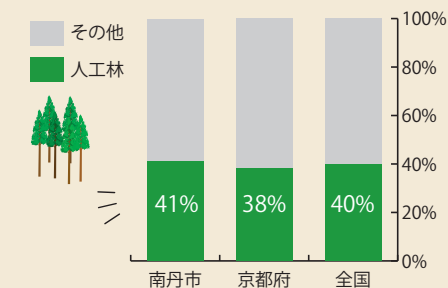
① 森林率 88%

南丹市は「森のまち」。暮らしのすぐそばに豊かな森林があります。市民一人あたりに換算すると約1.6ha（園部公園の陸上競技場ぐらい）の森林がある計算です。

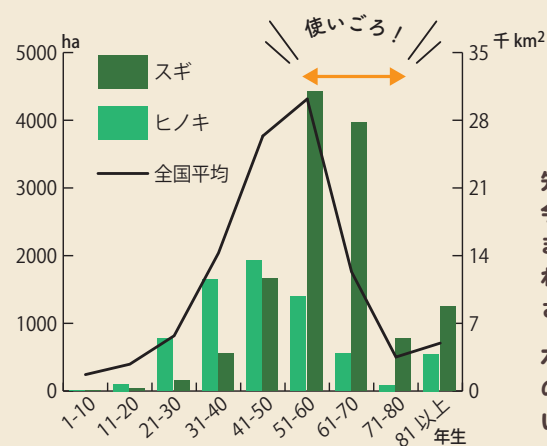


② 人工林率 41%

南丹市の森は天然林だけでなく、人の手で植え育てられたスギ・ヒノキの豊富な人工林によって支えられています。



③ 人工林資源が使いごろ



先人たちが植え育ててくれたスギやヒノキが、今、立派な森林となっています。その木を使い、また植えて育てる。住宅や家具として活用された木は、私たちの暮らしにぬくもりと豊かさをもたらします。

木を使うことは、森林を育てること。南丹市の森林は、そんな新しい循環の時代を迎えています。

「南丹市森林・林業・木材産業推進ビジョン」とは、市が進めている「南丹市をもっと元気に！地域の個性（特徴）を生かし希望あるまちづくり」を目指して、地域の将来に希望が持てるまちづくりを進めるために、南丹市の森林・林業・木材産業が貢献すべき内容を明らかにしたものです

